



日本共産党 市議予定候補

北村りゅうた

30歳



優しくて力もち、
北村さんを私の後継者
としてぜひ市政に

都議会議員 原 のり子

私は、5期18年市議会議員として活動し、7月の都議選で、都政の場へ送り出させていただきました。これからも、市民のみなさんとともにとりくみ、役に立てるようがんばります。

さて、今度は市政を変えるときがきました。30歳の北村りゅうたさんが挑みます。弱い立場に置かれた人に寄り添うのが政治、と考える北村さん。やさしく誠実で力持ち！市政に必要なのはこういう人です。私に倍するご支援を心からお願いします。

市民と野党の共同で、
私を都政に押し上げていただきたい力
今度は北村さんにお寄せ下さい。

市長予定候補 桜木よしおさんと共にがんばります。

「困っている人の味方に自分はなる」

市政への挑戦を決意した 北村りゅうたの思いとあゆみ

「都議になった原さんの後をついで市政に」と要請された北村さん。いったんは断りました。しかし頭の中では、これまで生きてきて感じた様々な思いが駆け巡りました。



ショックを受けた児童虐待の実態、 そして震災ボランティアに参加してみた光景

小学校のころから新聞を読み、社会について関心のあった北村さん。ある時「ネグレクト育児放棄—真奈ちゃんはなぜ死んだか」という児童虐待の実態を書いた本を読み、強いショックを受け、なんとかしたいと思いました。また東日本大震災のボランティアに参加。被災地の実態を見て、これは日本全体が支えなければ復興できないと思いました。こうした体験もあって、ぜひ、福祉や住民を支える地方公務員になりたいと思うようになりました。

思うようにゆかない就活で悩みに悩む

アルバイトをしながら公務員をめざし就活するもそこは狭き門。試験に何度も落ち、焦りや不安を感じ悩む日々が数年間にわたり続いた北村さん。若者の「生きづらさ」を身をもって体験しました。

民間会社での経験と、そこでわいた疑問

就職先を民間の会社に切り替え、自治体の計画をつくる手助けをするコンサルタント会社に就職した北村さん。公共施設の管理計画作成に関する仕事を多く担当しました。やりがいはありましたがあ、様々な疑問も感じました。「自分の調査が施設の廃止や縮小につながるのではないか…」、「住民の目線で見なくてよいのだろうか?」など…。北村さんは、こうした中で、「困っている人の味方に、自分はなる」と思い、日本共産党に入党したのです。

いろんな人がいて、いろんな生き方があるっていい 原のり子さんの一言で決意が固まる

市政への挑戦を要請された時、北村さんは自分の原点を改めて思い出しました。そして都議の原のり子さんから「社会にいろんな人がいるように、市政にもいろいろな人がいていい」との話を聞き、「困っている人の話をよく聞き、それを市政に届ける仕事なら自分にもできる。いや、今こうした仕事こそ政治に必要になっているのでは」と思い市政への挑戦を決断したのです。